

## えらんで、投票。「えらぼーと」

みなさんのベストパートナーは誰ですか。

この質問は恋愛に限ったことではない。選挙での候補者選びにも当てはまる。誰が自分に一番近い価値観を持っているか。この質問は同時に、自分の価値観を具体的に把握しているかを問いかけてくる。政党が乱立し政策が不透明な現代の日本においては、難しい質問だ。

この難題に簡単に答えてくれるウェブサイトがある。毎日新聞主催の「えらぼーと」だ。憲法改正、原発問題などに関する20個の質問について用意された選択肢を利用者がクリックする。すべて回答すれば自動的に、あなたと政党、立候補者との政策一致度をパーセンテージで示してくれる。各項目には政治の専門家による解説が付いていて、政治に詳しくない人でも気軽に取り組むことができる。

「フェアーにやらなければという自覚をもちました。」

監修員の一人、片山善博氏は語る。

やり方を間違えると国民を誘導してしまう危険性があるからだ。それを避けるため、片山氏ら監修員は公平性を確保する努力を重ねた。とはいえ、監修員にも「それぞれ政治的見解があり、そこが踏まえられた上で監修員の一人に自分が選ばれたと考える必要もある。」どこまでえらぼーとに自分の見解を反映すべきか頭を悩ませたという。

例えば、項目の選定には配慮が必要だ。最新版2012年衆院選えらぼーとには、「あなたは憲法改正に賛成ですか、反対ですか。」という設問がある。ここでいう「憲法」から受け手が連想する内容は、基本的人権の尊重に基づく環境権から憲法第九条まで様々だ。しかし監修側が「憲法第九条改正」と範囲を限定すると、選挙の争点を特定してしまいかねない。

注意深い検証を経て作られたえらぼーとだが、相性診断の結果は必ずしも投票行動には結びつかないと片山氏は指摘する。なぜなら、実際の選挙で政党を選ぶ際多くの方は、政策だけではなく、党首の魅力など感情的な要因にも左右されるからだ。

「自分の考えがどの政党のマニフェストに近いかを知り、自己を再認識することができる。えらぼーとは、自分の潜在的な政策選考に気づくよい機会になる。」

「えらぼーとだけに頼り、その結果を自らの政治的意見と決めつけるのではなく、あくまで参考程度に留めてほしい」と片山氏は語る。

えらぼーとはさらに広いアクセスを目指すため、スマートフォンなど新たなツールの活用も視野に入れ、改良を重ねている。こうしてインターネット媒体をうまく活用することは、国民の選挙に対する関心を高めることにつながりそうだ。インターネットでの選挙公報活動を規制していた、公職選挙法の改正が見込まれる現在、さらなるネット選挙の活性化が期待される。